



札幌高機能放射線治療センター

陽子線による前立腺がんの 治療期間は3週間に短縮できます お忙しい方、遠方の方に朗報です

当院では金マーカー・放射線治療用合成吸収性材料(ゲルスペーサー)の留置により、陽子線をごんに正確に照射するとともに直腸出血の発生リスク低減を図っています。
さらに1回当たりの線量を増やすことで照射回数を少なくした治療をはじめています。
これにより安全に治療期間は4週間と2日(22回)から3週間(12回)へ短縮し、患者様の通院負担は軽減されます。

適応症例: 限局性及び局所進行性前立腺がん (転移を有するものを除く)

除外基準: 下記に該当する方は通常の前立腺がん治療プロトコールでの治療となります。

- ・抗凝固剤・抗血小板剤を2剤以上服薬している
- ・潰瘍性大腸炎や直腸がん術後など
- ・金アレルギーがある など

	照射回数	治療期間
短期間の陽子線治療スケジュール	12回	3週間(4回/週)
通常の前立腺がん治療スケジュール	22回	4週間と2日(5回/週)

■当院の陽子線治療の線量分布(図)ではこれまで報告されているものよりも優れた特性を実現しています。

1. 効率的に前立腺に集中
 2. 直腸をほぼ完全に回避(ゲルスペーサーを併用)
- これによって晩発性出血性直腸炎のリスクが殆どない治療を提供しています。

■病理学的に診断されたT1c-T4(膀胱頸部浸潤)N0M0の原発性前立腺癌が治療適応です。進行している場合や転移がある場合もトモセラピーにより局所制御を図ることができ
ます。
(前立腺生検は当院でもお引き受けします。)

■中リスクの予後不良群以上の前立腺癌では原則として3か月以上のホルモン治療の後、放射線治療を行います。

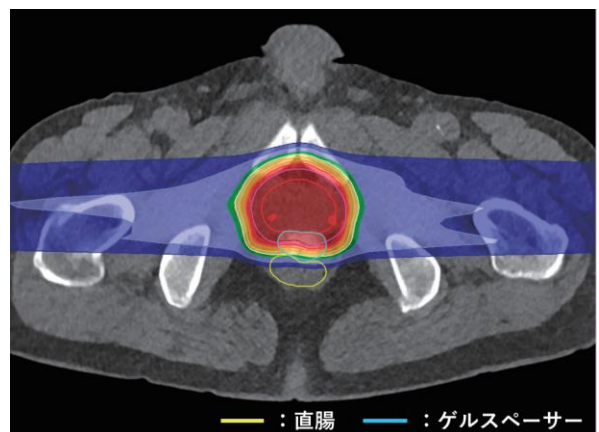


図 当院の陽子線治療の線量分布図